

取組事例

(所定外労働削減・年休取得促進・多様な正社員・朝型の働き方・テレワーク)

企業名：大和コンクリート工業（株）	所在地：沖縄県うるま市
社員数： 33名	業種：製造業

取組の目的：

長時間労働を縮減し働きやすく生産性の高い職場づくり
社員が「この会社で働けてよかった」と思える環境づくり

取組の概要：

〈現在の取組〉

○トップメッセージ

1日7時間で仕事をする。残業前提の勤務環境で生産性の向上はない。

〈所定外労働時間の削減〉

- 専門技術の習得のため社内の教育訓練を充実させ、複数の従業員が専門的な対応を行うことができるようにしている（多能工化）。
- 「この人しかできない」と特定の人に負担がかかることを防ぎ、一人一人の労働時間が長くなるようにしている（ワークシェア）。
- 勤務シフトを午前8時～午後4時と午前9時～午後5時の2シフトとすることで、工場の稼働時間を十分確保するとともに、従業員の労働時間の短縮を実現。
- 「ホウレンソウ（報告・連絡・相談）」の徹底、製品の出荷状況等の「見える化」等により情報の共有化、コミュニケーションの強化を図っている。
- AIの導入や日々の仕事の中から少しずつ効率化を行い、「残業に頼らない企業風土」を確立。
- 「残業代が減ると賃金が減る」ことにならないよう、効率化によって得られた利益は社員に還元。

これらにより「所定労働時間7時間」を可能とした。

<年次有給休暇の取得促進>

○1年間に全員が連続5日で取得することとしている。土日と組み合わせると連続9日の休暇とすることも可能となっている。5年程前から連続休暇制度を就業規則にも規定して運用している。

<健康経営宣言>

○データヘルス計画として、メタボリック症候群もしくは予備軍メンバーの体重管理を実施。従業員の健康増進を実施。

○社員数50人未満だが、産業医を選任している。

<今後の取組>

○QC活動による改善点の発見と不断の見直し

○現場の状況を経営陣と従業員が直接共有することで、現場の課題を会社全体として確実に把握できる体制を確立。

○1日6時間労働を目指して、日々、課題を把握しその改善策を検討している。

○AIの導入など中長期的な時間軸で検討が必要なことと、日々の小さな改善の積み重ねの双方向から効率化を行い、さらなる生産性の向上、労働時間の縮減に取り組んでいく。

現状とこれまでの取組の効果

○2017年7月から2018年6月までの1人当たりの所定外労働時間数は、年間で平均26.1時間（長い月でも平均6.3時間）となり、以前の労働時間が長かった時期と比較して、大幅に労働時間を削減している。

○初めは、従業員の中からも「1日7時間では仕事が進まない」という声もあったが「多能工化」を進めていく中で、「1日7時間労働」とすることを可能とした。

○一番変化したのは社員の時間の意識。定時で終わるため「効率」を社員全員が考えるようになった。

○連続休暇制度、1日7時間労働導入により職員全員が快適かつ充実した日常生活を送ることができる職場環境となった。

○沖縄労働局が推奨する「ひやみかち健康経営宣言」に登録